

パブリックコメント意見募集の結果公表

第2期おびひろこども未来プランの改定（原案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と帯広市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられたご意見等について検討した結果、第2期おびひろこども未来プランの改定（原案）を次のとおり修正して策定することとしました。

【意見募集結果】

案 件 名	第2期おびひろこども未来プランの改定（原案）		
募 集 期 間	令和7年11月26日（水）～令和7年12月25日（木）		
意 見 の 件 数 （意見提出者数）	77件（40人）		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	11件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	3件
	参考	今後の参考とするもの	9件
	その他	意見として伺ったもの	54件
意 見 の 受 け 取 り	持参		23人
	郵送		0人
	ファクス		0人
	電子メール（電子申請 HARP）		17人

【意見等の内容】

番号	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
1	子育てへの不安や困難を感じている人が増えている中、地域子育て支援センターなどの行政が設置した支援拠点を通じた支援の充実だけでなく、NPOなどとの連携や協働も強化してほしい。	4件	【その他】 出産や子育てに対し、不安や悩みを抱える家庭への対応として、行政や関係機関がそれぞれの役割を理解し、必要に応じて連携・協働を図りながら、地域で子育てを支えていくことが重要であると考えております。

2	こどもの意見をどのように施策へと反映していくのか、議論を進めてほしい。	5 件	<p>【その他】</p> <p>こどもの意見聴取に当たっては、こどもの年齢や発達の程度、さらには施策の分野によって、こどもとの関係性がさまざま異なることから、それぞれの内容に応じて対応していくものと認識しています。</p> <p>そうした中、施策の目的や実現可能性などから、こどもの意見と異なる結論が導かれることがあるものの、考え方や方向性などをこどもたちにわかりやすく示していくことが重要であると考えております。</p>
3	こどもの意見について、学校現場ではどのように取り組んでいけるのか。校則やクラスのルールづくりをこどもと一緒に考えていくなど教育行政の見解をこのプランでも示してほしい。	3 件	<p>【その他】</p> <p>こども施策は、こども・子育てのみならず教育や経済などの様々な分野も含まれ、あらゆる部署がこども施策の当事者になると考えています。各部署においては、こども基本法や本プランの趣旨を踏まえ、それぞれの施策の内容に応じた取り組みを進めていきます。</p> <p>なお、学校におけるこどもの意見への考えは、19 の回答をご覧ください。</p>
4	21 ページ I-3 「こどもの健康づくりの推進」の現状と課題では、遊ばせ方やしつけ方など、基本的な子どもとの関わり方に悩む親が大半とされている。経験や知識、子育て仲間の不足による不安の解消に向け、妊娠期や若年層が、様々な世代の人と関わっていけるような家庭教育の取り組みが重要であると考えている。	1 件	<p>【その他】</p> <p>家庭教育の取り組みは、子育てに関する知識の提供にとどまらず、体験の場づくりや異なる世代との関わりを通じて不安を軽減し、親になる過程を身近に感じられるよう進めていくことが重要です。</p> <p>帯広市では、ママと赤ちゃんの相談会や地域の高齢者と親子が交流できる世代間交流広場などを行っています。</p> <p>今後も地域で安心して子育てができる環境づくりに取り組んでいく考えです。</p>
5	22 ページ I-4-(2) 「安全なこどもの遊び場の確保」について、中学生から若者が安心して過ごせる場づくりが、施策からは読み取ることができなかった。こどもたちの第三の居場所の創出のために、中学生から若者を含めた居場所づくりの文言を加えてほしい。	1 件	<p>【その他】</p> <p>安全なこどもの遊び場の確保では、公園・緑地の整備や管理を通じ安全・安心に遊べる環境づくりを進めていく趣旨で施策を位置付けています。</p> <p>こどもの居場所づくりの方向性は、本文の 34 ページに記載しています。</p>

6	<p>22 ページⅠ－４－(2)「安全なこどもの遊び場の確保」について、公園などで「安心して遊べる環境づくりをすすめます」とあるが、大人が考える安心を一方的に子どもに押しつけてはいないか懸念があります。公園の遊具を見直す時は、地域の子ども達に相談するなどが大切ではないか。</p>	1 件	<p>【参考】</p> <p>こども施策は、子育て施策だけでなくこどもが関わるあらゆる部署が当事者になると考えています。ご意見のあった公園の遊具も含め、各部署においては、こどもへの意見聴取を念頭に置きながら施策を進めていくことが大切であると考えています。</p> <p>公園遊具の更新に当たっては、安全基準を遵守するとともに、公園の利用状況や町内会等の意見等を踏まえながら、こどもたちが安全に遊べる環境づくりを進めています。</p> <p>いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
7	<p>こども家庭センターの設置を通じ福祉と教育との連携が進められていることを踏まえ、25 ページ及び 26 ページの「こども家庭センター機能の推進」の施策の中に「教育」の文言を加筆してはどうか。</p>	1 件	<p>【修正】</p> <p>こども家庭センターでは、教育も含めて様々な関係機関との連携により、切れ目のない支援に向けて取り組みを進めていく考えです。こうした、学校との連携が進められている状況を踏まえ、関係機関の記載内容を修正します(25、26 ページ)。</p>
8	<p>子育てアプリおびモのような専用アプリを使って情報発信するよりも、帯広市公式ラインアカウントの活用の方が有用性があるのではないか。</p>	1 件	<p>【その他】</p> <p>子育てに関する情報発信は、多くの方に情報が届くよう子育て世帯の目線に立って発信していくことが重要であると考えています。</p> <p>帯広市では、これまで、市ホームページや広報紙による幅広い情報発信のほか、ラインやインスタグラムといった SNS など様々な媒体の特性を活かした周知を進めています。</p> <p>なお、子育てアプリおびモでは、アプリ利用者の属性と情報の内容、その優先度や必要性を考慮しながら、妊娠週数や子どもの月齢に合わせて発信しています。</p>
9	<p>32 ページⅢ－２「幼児教育の促進」では、身近な自然環境や大人たちとの関わりによって、親子関係だけでは得られない様々な経験をすることができ、地域の中でのびのびと成長できるよう取り組んでいくことが必要であると考えている。家庭教育の視点も追記してはどうか。</p>	1 件	<p>【既記載】</p> <p>32 ページは幼児期の教育に関する施策の方向性をまとめたものです。</p> <p>家庭教育については 4 の意見でお答えするほか、Ⅲ－３「子育てを地域で支える仕組みづくりの推進」で整理しています(33 ページ記載)。</p>

10	幼年期や学生時代に地域への思い入れや愛着を深める取り組みを進めることで、社会人になっても継続して帯広市に住みたいと思うのではないかな。	1 件	<p>【既記載】</p> <p>こどもの健やかな成長のためには、家庭・学校・地域が相互に協力していくことが求められていると考えています。本計画では、ふるさとへの理解や愛着を深め学んでいく機会の提供などを位置付け（41 ページ記載）、小・中学生対象のふるさと教育として、おびひろ市民学を実施しています。</p>
11	こどもの生きる力を育むためには、大人から与えられる体験だけでなく、日常生活の中で経験していくことが必要。帯広の自然環境を生かした「遊び」の環境をつくってほしい。	2 件	<p>【参考】</p> <p>豊かな自然環境を有する帯広市では、帯広の森や緑が丘公園などにおいて、こどもが自ら学び、考え、行動できるような自然体験の機会を提供しています。いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
12	子育て応援事業所の取り組みに停滞感を覚えている。文部科学省の家庭教育支援が混同することで縦割り行政になっているのではないかな。家庭教育をサポートする企業の登録制度などと連携を図るなどして実行力を高めてもらいたい。	1 件	<p>【参考】</p> <p>子育て応援事業所登録制度は、子どもを産み育てやすい環境づくりや、子育てを見守り喜びを共に分かち合うことができる社会環境づくりに資する取り組みです。いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
13	SNS 利用のルールに関する指導については、こどもと一緒に考え、自ら実践できるような丁寧な取り組みを希望する。	1 件	<p>【参考】</p> <p>SNS の利用については、情報モラルに関わる授業や出前講座等を通じて小・中学生はもとより保護者の皆さんへの啓発や情報提供を進めています。いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
14	33 ページⅢ－3「子育てを地域で支える仕組みづくりの推進」の現状と課題に「地域や幼稚園、保育所、認定こども園、認可外保施設、学校、企業などの関係機関が連携し」と記述されているが、地域の NPO 団体などとの連携を進めていくために「地域や地域の NPO～」と明記してほしい。	1 件	<p>【その他】</p> <p>帯広市では、地域で子育てを支える取り組みを進めている保育所や学校などの多様な主体とともに、安心して子育てができる地域づくりを進めてきています。今後も、NPO をはじめとする関係機関と連携しながら子ども・子育て支援の充実に努めていく考えであり、地域の NPO も関係機関に含まれています。</p>

15	こどもの居場所づくりに当たっては、こども食堂のみならず、居場所づくりに関わる様々な事業者の取り組みを周知していくほか、事業者と行政との連携強化、コミュニティセンターなど公共施設の開放の取り組みを通じ、居場所づくりを進めてほしい。	10 件	<p>【修正】</p> <p>こどもの居場所づくりは、身近な地域において、行政をはじめ、教育、福祉、医療など、あらゆる分野の関係者が連携し、様々なニーズや特性を持つこども・若者が、ライフステージに応じて、できるだけ多様な居場所を持てるよう支援していくことが重要とされています。</p> <p>関係団体との適切な役割分担のもと、連携を図りながら、支援が必要なこどもとその家庭への早期支援などに向け、行政に求められる取り組みを進めていきます。</p> <p>ご意見を踏まえ、記載内容を修正します（34、42 ページ）。</p>
16	36 ページⅢ－5「ひとり親家庭への支援」について、経済的支援、相談業務の他、孤立しがちなひとり親家庭にとって、親も子も安心して頼ることができる地域の居場所が大きな役割を果たすと実感してる。「地域とのつながりの支援」を加筆してはどうか。	1 件	<p>【既記載】</p> <p>帯広市では、ひとり親家庭を含めたすべての子育て家庭が安心して子育てができるよう、地域全体で子育てを支えている取り組みを地域や関係機関と連携して取り組みを進めていくことが大切であると考えています。</p> <p>こうした考えのもと、Ⅲ－3「子育てを地域で支える仕組みづくりの推進」を施策に掲げ、ファミリー・サポート・センター事業などの取り組みを進めています。</p>
17	児童会館では、おもちゃなどを多く設置するのではなく「科学に触れ合うきっかけづくり」ができるような方向性にしてはどうか。	2 件	<p>【参考】</p> <p>児童会館の科学展示は、こどもたちが科学に関する興味や関心を深めるための重要な役割を担っています。一方で児童会館内にある遊び場は、遊びを通じて体を使いながら楽しむことができ、こどもたちの成長を支える大切な場所でもあります。遊び場が科学館の機能と相乗効果を生み、利用者の皆様にとって魅力的な体験の場を提供していきたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>

18	こどもの体験活動を保障するために、既存の児童会館や百年記念館などの社会教育施設の老朽化問題や高校生・若者の居場所がない問題などを総合的に考え、新たなこども・若者のための複合施設を創設してはどうか。	1 件	<p>【参考】</p> <p>児童会館と百年記念館については、それぞれ築 60 年、40 年を超え、建物や設備の老朽化が進行しています。将来的な両施設のあり方について、現在の施設の課題や時代に対応できる機能や財政負担等、様々な観点から検討を進めていく必要があると考えています。いただいたご意見については、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
19	学校における持ち物の制限や授業時間、長期休業などの決まりを変更して欲しい。	32 件	<p>【その他】</p> <p>社会や学校の決まりごとに対してこどもたちが意見を表明することは、社会参画への意識を育むことにつながっていくと考えています。</p> <p>今後も、学校の授業等を通じて社会の仕組みを学ぶとともに、学校の決まりごとについて議論する機会の充実に努めてまいります。</p>
20	公園の遊具が、一部の年齢に合わないなど小さい子にとっては危険な遊具もある。公園が充実したらもっと楽しいと思う。	4 件	<p>【その他】</p> <p>公園遊具は、周辺利用者の利用状況や年齢層を考慮し設置しています。</p> <p>今後も、遊具に対象年齢を表示するなど、安全に遊べる環境づくりを進めていきます。</p>
21	こどもの発達検査を充実させ、保護者の困り感の解消を進めて欲しい。	1 件	<p>【参考】</p> <p>帯広市では、乳幼児健診以降、保健師による継続支援のほか、こども発達相談室における相談対応により、障害や発達に心配のあるお子さんの早期発見や保護者の不安の軽減に努めております。</p> <p>今後も、相談対応の中で、お子さんに対する具体的な支援方法の検討が必要な場合は発達検査を通じて、お子さんの得意なところや苦手なところを把握し、関わり方をご家族と一緒に考えてまいります。</p>

22	医療費の無償化を高校生まで拡充してほしい。	1 件	<p>【その他】</p> <p>帯広市では、こどもの健康増進と健やかな育成を図るため、子ども医療給付事業を子育て支援施策のひとつに位置付け、北海道の医療給付事業に市独自の助成を上乗せし、事業を実施してきました。令和6年4月からは、保護者の所得による受給制限の廃止や対象年齢を中学生までとする等、助成内容の拡充を行いました。</p> <p>対象年齢の更なる拡充に当たっては、継続的な事業実施に必要な財源を確保するなどの課題があることから、引き続き、事業の優先度なども含めて総合的に検討していきます。</p>
23	保育士等、こどもに関わる従事者の処遇改善を進めて欲しい。	1 件	<p>【その他】</p> <p>帯広市では、保育士等の人材の確保のために、国の補助を活用しながら処遇改善の取り組みを進めてきております。</p> <p>今後も、こうした取り組みを継続しながら、保育現場における ICT 環境の充実などを通じ、保育士等の負担の軽減を図るなどして、人材の安定的な確保に努めていく考えです。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり